

立教大学ESD研究センター活動記録(2007-2011年度)

阿部 治

立教大学 ESD 研究センターは、日本の大学における最初の ESD 研究機関として 2007 年 3 月に設立され、同年 7 月には『「持続可能な開発のための教育 (ESD)」における実践研究と教育企画の開発』として、2007 年度文部科学省オープン・リサーチ・センター整備事業(～2011 年度)に選定された。2012 年 3 月で同事業による活動を終え、同年 4 月から「ESD 研究所」と名称を改め、恒常的な大学附置研究所となった。ここでは ESD 研究センター時代の 5 年間の活動を紹介する。

立教大学 ESD 研究センターは、日本初の ESD 研究機関として、2007 年に設立された。幸いなことに、『「持続可能な開発のための教育 (ESD)」における実践研究と教育企画の開発』として 2007 年度文部科学省オープン・リサーチ・センター整備事業(～2011 年度)に選定され、文科省と本学から、多大な活動資金を獲得することができ、当初の計画を滞りなく実施することができた。研究プロジェクト設立に際して、本学に専門の研究者が存在するのみならず、ESD の主要な 2 つの基盤である「環境教育」と「開発教育」を軸に据え、アジア・太平洋地域を巻き込みながら、研究者だけでなく、NGO や国連機関等を含めた幅広いネットワークを構築し、大きくは「アジア」「太平洋」「CSR」という 3 つのアプローチを基盤に、それらを横断的に「統括」する研究組織を確立した。そして、国際的な重要文献の収集・翻訳・紹介、教材開発、指導者養成、ESD の現状調査と課題の特定、顔が見えるネットワーク構築といった、以下に示すように様々な活動を展開してきた。

【指導者養成プログラムの開発】

“ESD 指導者”の対象を、アジアチーム・太平洋チーム＝NGO スタッフおよび現地住民、CSR チーム＝社員に設定し、現地／現場での試行を重ね、随時フィードバックを得て改良、それぞれのフィールドでより活用しやすいプログラムのありかたを研究し、開発した。

【CSR における ESD 導入指針の開発】

CSR 関連事業に従事する企業人や NGO スタッフ等との会合を通して、「次世代 CSR におけるサステナビリティ教育指針—持続可能な社会の実現をめざす企業と企業人のためのガイドライン」を開発した。

【ESD コーディネーター養成講座】

ESD コーディネーター養成講座の設置を射程に入れ、全学共通カリキュラムとして、「ESD—持続可能な開発と教育」を開講し、異文化コミュニケーション研究科にて開講している ESD 論、RW(環境コミュニケーション)の充実化に協力をした。

【エコツアープログラムの開発】

持続可能なスウェーデン協会および旅行会社リボンと連携し、2008 年度にスウェーデンサステナビリティツアーを催行した。

【環境教育プログラムの開発と実施】

清里環境教育ミーティング(主催：日本環境教育フォーラム／共催：ESD 研究センター)において、研究成果を反映させた環境教育プログラムを展開、外部参加者からのフィードバックを得て、プログラムの精査のための研究を進めた。

2010 年 11 月 「サステナビリティの基本はこれだ！」

2011 年 11 月 「ESD × CSR サステナビリティ教育指針を体感！」

【地域連携プログラムの実施】

“風の人(＝立教大学関係者)”と“土の人(＝西池袋住民)”が集まり、意見交換や情報交流・情報提供の場を提供するプロジェクト「風土かふえ」を、2009 年度より継続して実施した。プロジェクトの目的は、主体的な社会参画が実現できる人づくり／地域づくりへ貢献することであった。

本稿後半部に記載したように、これらの活動の成果は、多岐にわたり、国内外で高く評価されている。中でも、「CSR としての ESD」についての指導者養成や教材開発の活動は、ESD モニタリング・評価レポート『Education for Sustainable Development -An Expert of Processes and Learning』(UNESCO, 2011)において、優良事例として紹介された。また、センターが主導してきた国内外の高等教育機関における ESD をつなぐ活動は、国内 ESD ネットワーク組織 HESD (Higher Education for Sustainable Development) の設立につながったばかりでなく、ESD の国際研究ジャーナル「J. of. HESD」のアジア・太



アジアチーム人材育成ワークショップ(2010)



CSR チームセミナー (2011)

平洋特集号の刊行 (英国・米国・中国・インド・台湾などの研究者を組織し、センターが編集) につながった。

また、ESD を広く知らしめる活動である Eco Opera! をはじめとする多くの講演会の開催も、センターの重要な成果といえる。これらの講演会を通じて、多様な活動がESD の切り口で語られることによって、ESD への理解を促すことができた。いずれにせよ、これらの活動によって、本学はESD の主導機関・ハブとして、国内外で知られるようになった。これらの成果物は、ESD 研究所のHP から、旧センターのHP に入ることによって閲覧できる。センターの成果物は、誰でもが本学に利用申請をすることで、活用いただくことができる。

●イベント記録 (抄)

《アジアチーム》

- 「日・タイ ESD 環境教育シンポジウム」(2007.10.21)
- 「タイにおける参加型開発の現状と参加型学習の課題」(2007.11.27)
- 「ASEAN 環境教育行動計画 2008～2012 実施ワークショップ」(2008.7.15～17)
- 「中国の環境問題と日中協力」(2008.10.25)
- 「石井昭男氏『マグサイサイ賞』受賞記念公開講演会」(2008.11.7)
- 「国際協力と開発教育～援助の近未来を探る～」(2009.2.19)
- 「参加型学習を通じたタイ・日交流事業の成果と課題」(2009.10.7)
- 「開発教育・ESD における国際交流・協力の成果と課題～開発教育・グローバル教育を通じた英国・EU との交流の歴史と課題～」(2009.10.19)
- 「タイの環境教育・ESD の動向～自然資源の持続的利用について～」(2009.10.30)
- 「ユネスコ第6回国際成人教育会議 (CONFINTEA VI) 報告会」(2010.2.3)
- 「世界一大きな授業の教え方～教育のための資金をテーマにしたモデル授業の実践紹介～」(2010.4.3)
- 「オルタナティブな社会をめざして～北タイのローカルな知～」(2010.7.10)

- 「今求められる『ESD カリキュラム』とは？」(2010.12.11)
- 「写真で学ぼう！『地球の食卓』」(2011.1.29)
- 「先住民と ESD」(2011.6.19)
- 「世界一大きな授業の教え方」(2011.7.10)

《太平洋チーム》

- 「太平洋島嶼国と気候変動問題～適応能力の向上に向けた教育と国際協力の可能性～」(2009.1.18)
- 「温暖化への適応とESD～JICA 市民参加協力事業報告～」(2009.2)

《CSR チーム》

- 「『サステナビリティ』というブランド価値～スウェーデンさきがけの持続可能性コンサルタントからのメッセージ～」(2008.3.8)
- 「CSR! 次のステップへ～持続可能な社会の創出のために～」(2008.10)
- 「タイにおけるCSRと日本企業の対応～ESDの視点から～」(2009.3.12)
- 「ESD × CSR を理解する7つの質問」(2009.7.12)
- 「CSR における ESD 指針の策定に向けて～企業版持続可能性教育ガイドラインづくり～」(2009.10.4・18)
- 「『次世代 CSR におけるサステナビリティ教育指針』発表シンポジウム」(2010.2.22)
- 「『次世代 CSR におけるサステナビリティ教育指針』発表」(2010.5.20)
- 「CSR × ESD 人材育成プログラム発表会」(2010.9.13)

《統括チーム》

- 「持続可能な社会をめざす ESD への期待」(2007.7.14)
- 「『省エネを表現しよう』スライドプログラムづくりワークショップ」(2007.10.21)
- 「台湾における ESD の現状」(2007.10.31)
- 「ESD 先進国ドイツからの報告」(2007.11.14)
- 「北米の森で感じたこと～写真家・大竹英洋の世界～」(2007.12.14)
- 「お金で世界を変える30の方法」(2008.2.3)
- 「スウェーデンと日本の市議会議員による報告会～サステナビリティの羅針盤で地域社会を元気に!～」(2008.5.31)
- 「ナショナル・トラストにみる持続可能な環境教



環境保全型農業を通じた地域づくりとしてのESD (佐渡、2011)



風土かふえ part 3 in ふるさと西池まつり (2010)

育」(2008.10.25)

「環境と文学のあいだ 6 交感は可能か？」(2008.11.8)

「風土かふえへようこそ！ 風のひと、土のひとが気軽に集い語らう時間」(2009.6.27)

「第9回環境就職セミナー／環境と経済から持続可能な社会を考える」(2009.6.29)

「つなぐ人フォーラム～アジアインタープリテーション・フォーラムに向けて～」(2009.9.5)

「ドイツ・スウェーデンにおける『ESDの10年』の成果と課題」(2009.10.3)

「持続可能な社会に向けて～一人ひとりの力が社会を変える～」(2009.10.20)

「第10回環境就職セミナー／環境へのアプローチ～国家・企業・消費者の役割～」(2009.11.23)

「『2021年のスウェーデン』プロジェクトの概要」(2009.11.24)

「エコクリティシズムと日本文学研究～自然環境と都市～」(2009.1.9, 1.10)

「地元学から学ぶ」(2010.1.31)

「風土かふえへようこそ！ part 2 西池袋のご近所力」(2010.5.16)

「第11回環境就職セミナー／次世代への架け橋～企業が描く持続可能な社会～」(2010.6.29)

「『子ども・暮らし・環境』フォーラム～人の成育環境としての自然～」(2010.7.3)

「風土かふえ part 3 in ふるさと西池まつり」(2010.8.25)

「ESDの10年・地球市民会議2010」(2010.9.10)

「第12回環境就職セミナー／環境社会人を育てる～エコフレッシュャーズが担う持続可能な社会～」(2010.10.25)

「ESDに取り組むアジア NGO ネットワーク構築～2014年 (ESDの10年最終年) にむけて国際社会、政府、NGOができること～」(2010.12.12)

「Bt. Brinjal：政府・NGO・農民間の対話にみるESD～インドにおける遺伝子組み換えのナスの導入をめぐる～」(2010.12.13)

「自然学校宣言2011」(2011.3.2)

「風土かふえへようこそ！ part 4 西池袋のまちづくり」(2011.6.11)

「震災支援の現状と復興に向けた挑戦～被災地の現場から～」(2011.7.6)

「第13回環境就職セミナー／つながりから考える持続可能な社会の形成」(2011.7.12)

「立教大学ESD研究センター成果報告会およびESD国際シンポジウム～アジア太平洋地域におけるESDの実践および今後の展開～」(2011.9.22～23)

「ふるさとには負けない～東日本大震災からの復興・再生～」(2011.10.26)

「ESDの最前線(1)：学校・家庭・地域をむすぶESD」(2011.11.16)

「ESDの最前線(2)：環境教育/ESD実践の現場から～奄美・勝山の事例より～」(2011.12.7)

「第14回環境就職セミナー／明日を生きる未来計画～企業が考える持続可能な社会の形成～」(2011.12.12)

「地域にどう根ざすか…持続可能な社会づくりに向けた新たな環境教育の枠組み」(2012.1.21)

《Eco Opera!》

「自然から学ぶ『持続可能な未来』～環境教育への期待～」(2007.6.4)

「『海を守ろう!』子ども絵画コンテスト」(2007.7～9)

「サンゴ礁から学ぶ『海・地球』～環境教育の実践～」(2007.9.28)

「持続可能な世界を紡ぐガイアシンフォニー～映像によるESDの可能性～」(2008.10.11)

「サステナビリティに向けた大学教育の挑戦～Higher Education for Sustainable Development～」(2008.12.12)

「サステナビリティに向けた大学教育の挑戦～カリキュラムと連携のあり方～」(2008.12.13)

「サステナビリティと高等教育～各国における取り組みに学ぶ～」(2008.12.14)

「『島の色 静かな声』上映会&講演会・演奏会」(2009.1.17)

「自然学校は地域を救う～ESD(地域を元気にする)拠点として期待される自然学校～」(2010.3.2)

「『学校教育に野外教育を』～スウェーデンの自然学校事情を知る～」(2010.3.22)

「生物多様性とESD～映像詩『里山』の上映と講演会～」(2010.7.7)



ESD国際シンポジウム「アジア太平洋地域におけるESDの実践および今後の展開」(2011)

「河原荒草とわたし」(2010.9.20)
「ネイチャーライティングなんて、書いたつもりじゃなかった」(2010.9.25)
『『もののけ姫』を読む』(2010.10.3)
「自然写真／心身を巡る雪月花」(2010.10.11)
「環境文学展&宮嶋康彦写真展『A Dragon in the Mist』」(2010.9.22～10.14)
「学校ビオトープと環境教育・ESD」(2011.9.27)
「銀座ミツバチ～都市におけるESDの可能性～」(2011.10.11)
「生物多様性とホットスポット」(2011.11.15)
「『西池袋』を刺激する！～東京芸術劇場×立教大学による持続可能な地域づくり～」(2011.11.28)

●刊行物

《教材シリーズ》

“If the World were a Village of 100 people- Workshop Edition”
“Talk for Peace! Let’s talk more what we can do to build up peace”
“The other side of the cup of coffee”
“Let’s Visit the World of the Curry!! : Diversity of Spices and Food Cultures”
“The Palm Oil Story : What does it mean to be ‘Eco-friendly’”
“The life of a Cell Phone”
『先住民族とESD』
『続・先住民族とESD』
『若者のためのESD～「私」から広がる世界～』
『Get Organized!!』(日本語版)
『ESD(持続可能な開発のための教育)実践教材集 足下から考える私たちの社会』
『ESDワークブック～サンゴ礁の島じま～』

《報告書》

『Eco OPERA ! 活動報告書』(2007)
『CSR 調査レポート・イギリス』(2008)
『CSR セミナー録「CSR! 次のステップへ～持続可能な社会の創出のために～」～2008年度連続セミナー～』(2008)
『HESD2008 関連事業報告書サステナビリティに向けた大学教育の挑戦』(2008)



『CSR 調査レポート・スウェーデン』(2009)
『CSR 調査レポート・アメリカ』(2009)
『地元学から学ぶ～講演会記録集～』(2009)
『自然学校は地域を救う～ESD(地域を元気にする)拠点として期待される自然学校～』(2009)
『CSRセミナー録「次世代CSRにおけるサステナビリティ教育指針」策定までの道のり～2009年度シンポジウム・セミナー～』(2010)
『自然学校宣言2011シンポジウム報告書』(2011)
『立教大学ESD研究センター成果報告会および国際シンポジウム—アジア太平洋地域におけるESDの実践および今後の展開—』(2011)
『連携協定締結記念シンポジウム/Eco Opera!“西池袋”を刺激する！—東京芸術劇場×立教大学による持続可能な地域づくり—』(2011)
『次世代CSRにおけるサステナビリティ教育指針 持続可能な社会の実現をめざす企業と企業人のためのESD(持続可能な開発のための教育)ガイドライン(第2.0版)』(2012)
『グローバリゼーションと参加型学習 アクション・リサーチ報告書』(2012)

《書籍》

『次世代CSRとESD 企業のためのサステナビリティ教育』(ぎょうせい、2011)
『アジア・太平洋地域のESD〈持続可能な開発のための教育〉の新展開』(明石書店、2012)
『ESD拠点としての自然学校 持続可能な社会づくりに果たす自然学校の役割』(みくに出版、2012)

阿部治(あべ・おさむ) 1955年、新潟県生まれ。立教大学ESD研究所長、社会学部・異文化コミュニケーション研究科教授。筑波大学・埼玉大学などを経て2002年から現職。現在、日本環境教育学会長、千葉大学客員教授、ESD-J代表理事、ESD世界の祭典推進フォーラム代表理事、国連ESDの10年政府円卓会議委員などを務める。環境教育/ESDのパイオニアとして、国内外における研究と実践にかかわっている。とくに現在は「国連ESDの10年」の提案者として、2014年の日本における最終会合の開催に向けて尽力中。